

令和8年度 調布市立飛田給小学校 学校経営方針

校長 松田 隆

1 目指す学校像

- 児童が毎日通いたくなる学校
- 保護者が安心して通わせることのできる学校
- 地域の誇りとなる学校
- 教職員が職務にやりがいを感じ、互いに資質を高め合うことができる学校

2 目指す児童像（学校の教育目標）

心ゆたかな たくましい子ども

- ・ じょうぶな体
- ・ 思いやりの心
- ・ 考える力（令和8年度の重点）
- ・ やりぬく力

3 中期的目標と取組の重点

- (1) 「ゆずりの心」に基づく、心身ともに健康な児童の育成
 - *周りの人も、自分も大切にす児童
 - *自分の体について知り、健康について考える児童
 - *恵まれた地域環境を生かし、すすんで運動に親しもうとする児童
 - *地域を愛し、地域に誇りをもつ児童
- (2) 将来社会の一員として必要となる「生きる力」の育成
 - *基礎的・基本的な知識・技能を基盤とした確かな思考力、判断力、表現力
- (3) 児童の命を守る安全・安心な学校づくり
 - *「調布市立学校食物アレルギー対応マニュアル」に基づく事故防止の徹底
 - *いじめの未然防止、早期発見・解決
 - *不登校の未然防止及び外部機関とも連携した組織的な支援
 - *危機管理意識の共有による、授業における事故防止、学校施設の安全点検
- (4) 全職員で児童を育てる組織的な学校運営
 - *学年としてのまとまりを重視した学習指導、生活指導
 - *教科担任制のさらなる充実
- (5) 保護者・地域とともに児童を育てる「開かれた学校」づくり
 - *コミュニティ・スクール導入による保護者、地域との連携の一層の充実
 - *学校運営協議会と地域学校協働本部とが連携した実効性のある取組の推進
- (6) 特別支援教育の充実
 - *校内通級教室拠点校としての運営体制の確立
 - *通常学級における支援体制のさらなる充実 効果的な人材活用
- (7) 職員の自己研鑽のための研修の充実
 - *職員一人一人の専門性を伝え合い、共有するOJTの推進
 - *校外における研修の参加機会の確保 研修情報の共有
- (8) ライフ・ワークバランスの推進
 - *校務改善 会議時間の短縮 校務支援システムの活用 年休取得の促進
 - *勤務時間を短縮し、退勤時刻を早める工夫
 - *校務におけるデジタル、AIの利活用

4 令和8年度の具体的な取組

- (1) 「ゆずりの心」に基づく、心身ともに健康な児童の育成
 - ア 児童一人一人のよさを認め、伸ばす教師の指導・支援・励まし
 - ・ 「やればできる」という児童の自己肯定感を高めさせる
 - イ 教師が範を示しながら、児童の人権感覚を育てる
 - ・ 呼名 言葉遣い 掲示物
 - ・ 学年だより 学級だよりなどの配布文書 学校ホームページ
 - ウ 挨拶の励行
 - ・ 「自分から」を大切に
 - エ 養護教諭、栄養士も関わる保健指導、食育指導の充実
 - オ キャリアパスポートの活用による児童の自己理解の促進
 - カ 「教科担任制プレ加配」を生かした体育科学習指導の一層の充実
 - ※ 「運動が好き」という児童を増やす 体力テストの数値の向上を目指す
 - キ オリンピック・パラリンピックレガシーの継承
 - ・ 自己理解、他者理解、障害者理解
 - ・ 多様性の尊重を基盤にした教育活動
 - ・ 運動の日常化 全校で取り組む休み時間の外遊び
 - ・ アスリート派遣事業などを活用した授業体験
 - ・ 地域のスポーツ施設を活用した運動体験
 - ク 児童が地域を知り、地域に愛着をもつことにつながる活動の充実
 - ・ 各学年における各教科等の年間指導計画への位置付け
 - ・ 地域学校協働本部と連携した地域人材の授業参加、授業参画
 - ・ 地域の各団体と連携した児童の体験活動の充実
 - 健全育成推進飛田給地区委員会、飛田給小学校地区協議会、地域自治会、民生児童委員協議会、開放運営委員会、スポーツ推進委員会 など
- (2) 将来社会の一員として必要となる「生きる力」の育成
 - ア 教室環境整備と学習規律の徹底
 - ・ 学校全体で確認・徹底する学習規律、学年で段階的に身に付けさせる学習規律
 - ・ 間違いや失敗を受け止めることのできる受容的な集団づくり
 - ・ ユニバーサル・デザインの考え方に基づく教室環境の整備
 - 学習に集中できる教室掲示、板書、一日の見通しの掲示など
 - イ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
 - ・ 朝学習の時間の活用
 - ・ 家庭学習の充実
 - ・ タブレット端末の活用
 - ウ 思考力・判断力・表現力の育成
 - ・ 東京都「デジタルを活用したこれからの学び」推進地区及び調布市教育委員会研究推進校2年次の研究を通じた児童の思考力・判断力・表現力の育成につながるデジタル、ICT活用の在り方の追究
 - ※ 発達段階に応じた系統的な情報モラル教育による児童の情報リテラシーの獲得
 - ・ 第八中学校との連携による9年間を見通した学びの在り方の追究
 - ※ 合同研究発表会 令和9年1月22日(金)予定
 - ・ 児童一人一人が「自立した学習者」となる学びにつながる授業デザインの追究
 - ・ 「令和8年度生成AIパイロット校」としてのAIを含む情報活用能力の育成に向けた教材実証
 - ・ 違いを認め合う学級・学年の人間関係づくり
 - ・ 自分の考えをもち、相手に伝えることを重視した学習内容、学習形態の工夫
- (3) 児童の命を守る安全・安心な学校づくり
 - ア 小さな兆候を見逃さないいじめの未然防止、早期発見・解決
気付いたらすぐに共有 組織で対応
 - イ 児童が不安や悩みを相談しやすい体制整備
スクールカウンセラーによる5年生全員面接 1学期中
児童が相談できる大人の選択肢を増やす 副担任制の活用
 - ウ 「ヒヤリ・ハット」を軽視しない危機管理意識の共有 事故の未然防止
 - エ 「週ごとの指導計画」への安全上の留意点の明記
 - オ 組織的な不登校対策の推進
 - ・ スクールソーシャルワーカー、教育相談所、「すこやか」、「太陽の子」、「テラコヤ・スイッチ」、「メンタルフレンド」など、外部機関とも連携
 - ・ ステップルーム運営のさらなる充実 見守り人材の拡充及び連携・情報共有

- カ ICT活用と共に進める家庭と連携した情報モラル教育
- キ 感染症、熱中症などの予防対策の徹底
 - ・ 児童が自ら意識することを大切に 学校で 家庭で
 - ・ 毎日のWBG T指数確認による活動実施の判断（4～9月）
- ク 地域の各団体と連携した学校内外における児童の安全の見守り
- (4) 全職員で児童を育てる組織的な学校運営
 - ア 学習指導も、生活指導も学年で共に 副担任制の導入による連携の強化
 - イ 専科、校内通級教室、スクールカウンセラー、支援員などとの情報共有も大切に
 - ウ 報告、連絡、相談体制の徹底
 - ・ 保護者への連絡帳、電話連絡なども確認し合いながら
 - ・ 生活指導上の問題は、解決済みであっても必ず報告
 - エ 体育館大規模改修を見通した学習計画、行事計画などの検討
 - ※ 体育科を中心とした年間指導計画の見直し
 - 朝会、集会、クラブ活動、委員会活動など学校生活全体で生ずる影響への配慮
 - 行事の変更などに伴う保護者への丁寧な説明
 - 体育館使用団体、地域行事関係者などとの連絡・調整
- (5) 保護者・地域とともに児童を育てる「開かれた学校」づくり
 - ア コミュニティ・スクール導入による保護者、地域とのさらなる連携の充実
 - ・ 保護者や地域の願いが反映される学校づくり
 - ・ 学校の悩みや課題も相談できる関係づくり
 - ・ 学校運営協議会委員と職員、児童との交流など、互いをよく知る工夫
 - ※ 夏季休業中の情報交換会 など
 - イ 学校運営協議会と地域学校協働本部の円滑な連携
 - ・ 学校からの積極的な情報発信 必要な支援内容を具体的に依頼
- (6) 特別支援教育の充実
 - ア 校内通級教室拠点校としての指導方針の共通理解、情報共有 巡回校との連携強化
 - イ 特別支援教育コーディネーターを中心とした学校全体で進める組織的な支援
 - ※ 校内委員会のさらなる充実による支援策の具体化、外部機関との連携強化
 - ウ 学級、学習への支援体制の充実
 - ・ 特別支援教室専門員、スクールサポーター、学級支援員、スクールカウンセラーなどが適時、適切に関わりながら
 - ・ 連絡、相談を綿密に行い、情報を共有する
 - ・ 担任が学級全体を把握することは忘れずに
 - エ 個別の教育支援計画、個別指導計画の作成、活用、管理
- (7) 職員の自己研鑽のための研修の充実
 - ア 校内におけるOJTの推進
 - ・ それぞれの職員の得意分野、専門領域を伝え、広め、全体の資質向上につなげる
 - ・ 若手に限らず、互いに授業を参観しやすい環境を整える
 - ・ 職員同士の情報交換、管理職との対話などを通して、将来のキャリア像をイメージすることができるようにする
 - ・ ヒヤリ・ハット事例を共有して服務規律の徹底を図り、事故を未然に防ぐ
 - イ 校外における研修の充実
 - ・ 職層、経験年数などに応じて、東京教師道場、教育研究員などの研修制度を活用する
 - ・ 補教体制などは互いに協力し合い、他校研究発表、指導教諭による模範授業など、校外の研修に参加しやすい環境づくりをする
- (8) 働き方改革の推進
 - ア 校務の見直し、効率化
 - ・ 削減ありきではなく、教育的意義を踏まえた上で効率化が図れるものについては随時見直す
 - イ 分かりやすい引き継ぎ、申し送り
 - ・ 担当者が代わっても困ることがないように、実施要項、実施計画に必要なポイントを追記する
 - ・ 実施後の反省がまとまったら、年度内にできるだけ早く要項に反映させる
 - ウ 勤務時間の短縮 定時退勤日の設定、1日15分退勤を早めるなど、まずは各自で
 - エ 育児、介護事情に配慮した職場の支え合い 男性の育児関連休暇取得も積極的に
 - オ 年休取得の推進 年間15日以上を目標に
 - カ 生成AIパイロット校としての取組を校務改善にも生かす